



藤棚

正門を入ってすぐに見える藤棚は、毎年4月下旬ごろに満開を迎える。花の長さは1メートルを超えるものもあり、見応え十分。



石柱

相模（現在の小田原）の戦国武将・松田憲秀旧邸の門柱で、徳川5代将軍綱吉がここを訪れた際の茶室跡ともいわれている。



ギョイコウ

希少な緑の桜として知られるギョイコウも一見の価値あり。白色から淡緑色の花をつけ、ソメイヨシノより少し遅い時期に花開く。

旧芝離宮恩賜庭園

- 所在地／東京都港区海岸一丁目
- 最寄駅／JR山手線・京浜東北線「浜松町」北口より徒歩1分、都営地下鉄大江戸線・浅草線「大門」より徒歩3分、ゆりかもめ「竹芝」より徒歩10分
- 開園時間／午前9時～午後5時（入園は午後4時30分まで）
- 休園日／年末・年始（12月29日～翌年1月1日まで）
- 入園料／一般150円／65歳以上70円（小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料）／20名以上の団体一般120円、65歳以上50円／年間パスポート一般600円、65歳以上280円／9庭園共通年間パスポート一般4,000円、65歳以上2,000円
- ※無料公開日：みどりの日（5月4日）、都民の日（10月1日）



山から川に流れ落ちる滝を彷彿とさせる枯滝。屏風状の石を交互に配置して奥行きを感じさせる造りに。川に見立てたところは通路になっている



昔は潮の満ち引きによって現れていたという飛石。潮の干満により、州浜や島々の風景が劇的に変化したと言われている



もともと水面を照らし出す灯籠（とうろう）だったという雪見灯籠から大泉水（池）を望む。目の前にビルがそびえ立つものの、開放的な空間が広がっている

時には飛石を渡って中島や浮島を巡るといふ楽しみ方もしていたようです」と黒崎さん。通常中島は見せる島であって、渡らせるといふことはないそう。ここはあえて渡ることを良しとしたことから、遊び心が感じられます。当時は波の音が聴こえるほど海に近く、明治天皇が来られた際には庭園内の丘（九尺台）から漁業の様子をご覧になったと黒崎さんが教えてくださいました。

勇壮な石組の数々

旧芝離宮のもう1つの見どころ

が、あらゆる石を巧みに組み合わせさせた石組です。庭園内は数々の名石を用いた庭造りが行われており、中国で仙人が住むと言われる蓬萊山（ほうらいざん）を表した中島の石組のほか、藩主の地元・小田原から運ばせた名産・根府川石を使った根府川山の石組の群れなど、実に見事なものばかり。池の中央には、造園当時の日本人にとって憧れの地だった中国は西湖の堤を模した石造りの堤があり、この先にある中島の石組は楽壽園の頃からのものだそう。

旧芝離宮は、現在近隣のオフィ

スで働く方たちの憩いの場として愛され、お昼時にはお弁当を広げてくつろぐ方も多いのだとか。また、日本庭園は四季の移り変わりを感ぜられる上、程よい起伏と広さのため、散歩するにはうってつけの場所。足腰が弱くなったシニアの方には、駅から近いこちらの庭園散策をリハビリに勧める医師も多いのだそう。65歳以上の場合、年間パスポートを購入しても280円という、お値段的にも魅力的な旧芝離宮恩賜庭園。ぜひ一度、海風が心地良い都会のオアシスを歩いてみませんか？

水の満ち引きを楽しんだ遊び心溢れる名園

旧芝離宮恩賜庭園は、今から約350年以上前、海面を埋め立てた土地に小田原藩主・大久保忠朝が屋敷を建て、庭を作って「楽壽園」と名付けたところからその歴史が始まりました。以来さまざまに人の手に渡り、紀州徳川家の芝御屋敷、有栖川宮家の所有を経て、

明治8年に宮内省が買い上げて翌年に芝離宮となります。関東大震災によって建物と樹木の大半が失われてしまいましたが、震災の翌年に東京都の庭園となってから整備と復旧工事が行われ、大正13年より一般公開されるようになりました。現存する大名庭園の中で最も古い部類に入るこの庭園を、所長の黒崎さんと共にご案内しましょう。

シニアライフ・コンシェルジュが案内する

都内の名処



海と共に育まれた大名庭園

CHAPTER 6

旧芝離宮恩賜庭園

きゅうしばり きゅうおん し てい えん

東京に観光名所は数あれど、あまり知られていない穴場スポットは数多く存在します。そんな「都内の名処」を、シニアライフ・コンシェルジュ藤野政史がご案内します。今月は、JR浜松町駅の隣に広がる大名庭園「旧芝離宮恩賜庭園」に出掛けてみましょう。



藤野政史

グローバルライフ株式会社
代表取締役
シニアライフ・コンシェルジュ
シニア世代の皆さまが楽しく、笑顔で、遊び、学ぶ、集う会「グローバルライフクラブ」を運営。

「都内の名処」を募集中!

グローバルライフクラブ 検索
0120-70-0202

浜松町駅の北口に降り立つと、すぐに控えめな佇まいの正門が見えてきます。ここ旧芝離宮恩賜庭園は、国の名勝にも指定されている由緒正しき回遊式泉水庭園。ひとたび門をくぐれば、ビルの谷間に別世界が広がります。

「東京都には多くの日本庭園がありますが、これほどまでに遊び心に溢れた庭園は見たことがありません。ここが造られた当時、敷地内の池には海水が引かれていました。そのため、潮の満ち引きによって池の水位が変わり、訪れる人々はその景色を楽しんでいたようです。わざと入り組んだ池の形にして潮の満ち引きを鑑賞したり、雪見灯籠がある州浜と砂浜の両方を設けるなど、池の作り自体にも工夫が見られます。また、引き潮の

